

## 巻 頭 言



茨城県知事 大井川 和彦

# 世界に飛躍する茨城へ

茨城県においては、首都圏北部の空の玄関口である茨城空港から、国内各路線に加えて上海と直行便で結ばれているほか、3月からは台湾とのプログラムチャーター便が運航されるなど利便性がますます向上しています。また、今年10月には第17回世界湖沼会議、来年にはつくば市でG20関係閣僚会合のうち「貿易・デジタル経済大臣会合」が、さらに翌年には東京オリンピックのサッカー競技が「茨城カシマスタジアム」で開催されるなど、国際交流の拡大に向けた明るい動きが展開しております。こうした潮流に乗りながら、世界を意識した新しい茨城づくりに、自ら先頭に立って挑戦してまいります。

本県を訪れる外国人は年々増加しており、2016年には過去最高の25万9千人を記録しました。日本三名園の一つである偕楽園や、ネモフィラやコキアで彩られる国営ひたち海浜公園をはじめとする地域資源を活用した観光振興のほか、宿泊予約サイト等を活用した戦略的な誘客プロモーションの展開や宿泊施設の充実を図るなど受入体制の整備に努めています。あわせて、外国クルーズ船の誘致や茨城空港の新規路線誘致を進め、「ビジット茨城」施策を展開してまいります。

また、茨城県は温暖な気候で農業に適した豊かな土地が広大にあり、農業産出額は全国第2位という強みがあります。こうした強みを生かし、海外市場にも目を向け、輸出に意欲的な産地による現地でのプロモーションを支援するとともに、農産物の輸送技術や輸出にあった生産技術の検討を進めることにより、農林水産物のブランド化及び輸出拡大を図ってまいります。

さらに、これからのグローバル社会で通用する新しい「人財」を本県から輩出できるように、教室と海外を繋いで双方向で英会話を行う英語教育やインターネットを介したプログラミング教育などにも取り組むほか、意欲のある子どもたちが学べるチャンスや環境を作り、茨城ならではの教育環境づくりにも取り組んでまいります。

これらの取組みは決して簡単なことではありませんが、自治体、企業、県民の皆様全員が一緒になって前に進んでいけば、必ず本県が世界に飛躍する日が来ると信じております。